粗忽家 勘尺

高２６期

社会人落語家

えーしばらくの間、お付き合いを願いますが…

福岡で社会人落語家を演らせてもらってます、粗忽家勘尺（そこつや　かんしゃく・安田吉徳）と申します。どうぞ顔と名前だけでも覚えてやってください。本業は福岡でフリーランスのライターで主に企業や大学・専門学校などに伺い、仕事内容や学校生活についてお話しを聞いて広告を作る「人と企業、人と学校をつなぐ」お手伝いをさせて頂いております。

まずは「創立 100 周年、誠におめでとうございます！」今年はそのプレイベントも行われるそうで、楽しみにしています。

登美高との出会いは、中学の担任から「今の成績なら受験勉強頑張れば登美丘なら合格ライン」と進路相談で言われましたので決めました（安易すぎる…）。それでも合格発表の時、掲示板に自分の番号見つけた時は嬉しかったですよ。

その合格の日から始まった学校生活を振り返ると…入部先した美術・工芸部は先輩、同級生は女子ばかりで１年生の後期には無理やり部長にさせられ、夏の合宿先で 10m の崖から落ちたり、文化祭の準備で毎夜遅くまで作品作りに没頭したり。受験当時、世界を賑わした人物が実はクラブの OB だったとか…（苦）。話のネタは山ほどあります。途中から陸上部も兼部し、生徒会にも属するなど、ともかく刺激に溢れた高校生活でした。今も似たような毎日を過ごしているのも、登美高での3年間が楽し過ぎたからだと思います。

それだけにバブリー・ダンスで「TOMIOKA」の名前が世界中に広がった時は嬉しかったですなぁ～。先日 Tver・関西ローカルの番組で登美高が紹介されました。懐かしい校舎や食堂の風景とともに、現役の生徒さんらがイキイキと話す姿や部活の様子から、「生徒の自主性を尊重する校風」が今も続いている事を実感しました。これからも「登美高らしさ」を続けていって欲しいです。

落語家としての活動は早いもので今年で 12 年目に入りました。毎回、初めてお会いする人の前で話す時はとても緊張しますが、お客様の中から笑いが起きると一気に高揚感に変わるのは不思議ですね。落語会のマクラで「私もあの登美丘高校出身の…」ていうだけでお客さんが湧きましたから、このネタは随分と使わせていただきました。ダンス部の皆さんには感謝申し上げます。

落語家活動は地域貢献の意義も込めて、今後も続けてまいります。いつの日か在校生や OB・OG の皆さんにも聴いて頂く機会があることを信じて、これからも日々精進してまいります。ありがとうございました！

…え！　なんです？！　この話のオチがない？！

いや、これでええんです！

「登美高にオチなかった」から出来るお噺ですから

■プロフィール

1977 年 3 月　大阪府立登美丘高校高校卒業

1979 年 4 月　美術系短期大学卒業後、就職

1984 年 2 月　幾つかの企業を転職し（株）リクルート入社

1989 年 3 月　同社退職し、フリーランス・ライターとして独立。現在に至る。

2009 年 2 月　地元福岡の老舗落語会「内浜落語会」に入門。粗忽家勘尺の名前で商店街寄席をはじめ、プロの落語家の独演会を企画・運営のほか、老人会、カフェでの落語会の開催等々、福岡を中心に活動中。